



認められる喜び 関わる喜び 高まる喜び

早通小だより

ホームページ <http://www.hayasho.city-niigata.ed.jp/>

学校だより
新潟市立早通小学校
第5号
令和 5年10月27日



後期はチャレンジ！ 失敗しても・・・

校長 岡田 義則

後期がスタートしました。今年度の授業日数は残り100日を切りました。前期の終業式と後期の始業式では、各学年の代表がめあてを発表しました。学校で頑張ること、家でも頑張ること、苦手を克服したいこと、最後まで頑張りたいこと等、ステージに登って決意を話してくれました。中にはこの発表もチャレンジと捉え「原稿を見ずに発表する」とやり切る児童も。発表してくれた代表の決意が伝わってきました。また、ステージ上からも全校のみんなの「頑張ろう」という気持ちが伝わってきたそうです。良い後期になることでしょう。

さて、子どもたちには、後期のめあてに向かって、まずは取り組み始めてほしいと思っています。やり始めるとうまくいかないことや思い通りにいかないことに気付くことでしょう。それでもやり続けることが大切で、その結果、願った結果になったら素晴らしく、そうでなくても経験値は上がります。時には結果が思うようにいかなくても偶然、意外な結果をもたらすこともあります。ここでは、ノーベル化学賞を受賞した田中耕一さんのエピソードについて紹介します。※

田中さんは、経歴からユニーク。修士号も持たない民間企業に勤めているエンジニアでした。そのような経歴の人にノーベル賞が贈られたことは異例で、話題にもなりました。研究の内容は世界では誰も成功していなかった「たんぱく質の分析方法」の確立。タンパク質は人体の15%を占め、分析ができれば様々な病気の解明に役立つというすごい研究。その発見は、実験に失敗した試薬を誤って別の試薬に混ぜてしまったが、もったいないということで敢えて実験してみたところ大発見につながったというものです。

田中さんは「偶然、発見しただけだ」「研究を進展させた科学者の方が受賞にふさわしい」という批判を受けて、自分は受賞に値する科学者なのかと自問自答したそうです。自分を見失いそうになった時に新たな目標を立てました。それは分析する技術を発展させて「血液一滴から病気を診断する方法の開発」。幼い時に病気で母親を亡くしていたので「人々の役に立つ研究をしたい」と思っていた初心に立ち返ったそうです。年間1億円をかけていましたが、7年間病気について分析したものの研究は進まなかったようです。その後、認知症の研究にとりかかり、2年後。アルツハイマー病を発症させる脳内物質の検出に成功。しかし、認知症の専門家によるとその物質を検出しても認知症の発症を予測することはできないとのこと。更に分析を進めると「未知のたんぱく質」を検出していることが分かり、その未知のたんぱく質と一緒に分析すると認知症の発症リスクが診断できることが分かりました。これも大発見です。

田中さんはインタビューで次のように言っています。「失敗を恐れて取り組まないと、結果として何もできないということになる。もっと色んな可能性というものにチャレンジというか、失敗してもいいから、私も失敗していますから、チャレンジしてほしい」と。

二度の発見は偶然といえば偶然ですが、偶然を生み出すには失敗を恐れずチャレンジし続ける、不断の努力が大切になります。早小のみんなも失敗を恐れず色々なことにチャレンジし、自分にとって価値のあるものを見つけてほしいと願っています。

※参考：文集オンライン「ノーベル賞がなかった」田中耕一が初めて明かした16年間の「苦悶」より

なかよし班で楽しんだ ひまわり遠足 9月27日

<p>プラネタリウムでは、ちこちゃんのかおが大きくなって、おこっているのがおもしろかったです。いろんなしゅるいのほしがあって、きれいでした。</p> <p>はんのみんなでまわっていたら、いぬのロボットがいました。あるいていたので、びっくりしました。</p> <p style="text-align: right;">1年生 児童</p>	<p>ぼくがひまわり遠足で一番楽しかったのは、フォトオリエンテーリングです。ひまわりはんのみんなでしゃしんのぼしょを見つけるのが楽しかったです。はんちょうについて行って、みんなできょうりよくしながらがんばって見つけました。ひまわりはんのみんなとなかよくなれてよかったです。</p> <p style="text-align: right;">2年生 児童</p>
<p>わたしが楽しかったのはプラネタリウムと雲のわかです。プラネタリウムをはじめて見たのでびっくりしました。はんの人と行動して楽しかったし、雲のわかをきょう力してきれいにできたのでうれしかったです。またはんのみんなでいきたいです。</p> <p style="text-align: right;">3年生 児童</p>	<p>ひまわり遠足で、オリエンテーリングをしました。班のみんなで写真の場所を探しました。</p> <p>プラネタリウムで星を見て、いろいろなことを知りました。電気が出てくる箱にさわったら、すごい静電気がきました。</p> <p style="text-align: right;">4年生 児童</p>
<p>班のみんなではぐれないで、ルールを守って、フォトオリエンテーリングができて良かったです。そして、問題を全問解けたのでよかったです。プラネタリウムでは、星座の名前をいろんな人が勝手につけないために88個にしたことも分かり、楽しかったです。</p> <p>また、自然科学館に行きたいけれど、今度は登山に行きたいなあと思いました。</p> <p style="text-align: right;">5年生 児童</p>	<p>低学年をまとめてきらリーダーらしくふるまうめあてが達成できた。</p> <p>やったことでよかったことが2つある。1つ目はみんなと仲良くなれたこと。普段の掃除の時より、明らかに話す機会が増えたからだ。2つ目は自信がちょっとついたこと。人をまとめる力が付いたと思うからだ。</p> <p style="text-align: right;">6年生 児童</p>



なかよし班のメンバーで、フォトオリエンテーリングをしながら楽しい展示物がいっぱいの自然科学館内を回りました。



「次は、どこに行く？」6年生がリーダーシップをとり、協力して活動できました。



「みんな、撮るよ～」フォトオリエンテーリングのチェックポイントでは、展示物の前で集合写真を撮影しました。



活動後はおまちかねのランチタイム。班ごとに円くなり、おいしいお弁当をいただきました。